

長老およびセクターリーダーからの手紙

東京キリストの教会の兄弟姉妹の皆さんへ

“あなたの神、主のもとに立ち帰り、わたしが今日命じるとおり、あなたの子らと共に、心を尽くし、魂を尽くして、御声に聞き従うならば、あなたの神、主はあなたの運命を回復し、あなたを憐れみ、あなたの神、主が追い散らされたすべての民の中から再び集めてくださる。たとえ天の果てに追いやられたとしても、あなたの神、主はあなたを集め、そこから連れ戻される。”

申命記 30:2-4

東京キリストの教会は、1951年に創設された代々木八幡キリストの教会から、さらなる成長を願い、1989年に新たな出発をしました。以来現在にいたるまで神様の力と一人一人のクリスチャン達の信仰によって多くの成長を見ることができました。多くの人が神様の愛と恵みを知って、人生を変えられました。教会での交わりをとおして人種、年齢、経験を超えた関係が与えられました。この期間に皆さんが払ってくださった犠牲に心から感謝しています。

教会が成長していくと同時に、様々な問題が明らかになり、神様は私たちを悔い改めに導かれました。3月14日、東京キリストの教会の代表牧師による謝罪と辞任をとおして、リーダーシップの構造に変化がもたらされました。従来の縦の関係のリーダーシップは、成熟した教会にはそぐわないものでした。私たちは、現在の教会に相応する聖書的なリーダーシップの構造を目指しています。現在、長老を中心に、教会全体と協力して監督者グループの形成を進めています。この変化によって、教会は個人に導かれるのではなく、グループによって導かれることが可能になり、教会全体にさらなる一致がもたらされることを心から願っています。

同時に、特に過去の数ヶ月間において、私たちは、皆さんとの個別の話し合い、地域ごとの話し合い、アンケート、電話、手紙、Eメールなどをとおして、私たちが悔い改めるべき点を聞くことができました。皆さんが勇気をもって伝えてくださったこと、正直に自分の思いや傷を話してくださったこと、この教会の再建のために案を出してくださったこと、のすべてに心から感謝しています。皆さんの声は私たちが変わるために大きな助けとなっています。これらを通してはっきり見えた私たちの罪を改めて謝罪するとともに、現状をお伝えします。

1. スタッフの傲慢さ <マタイ 20:25-28>

スタッフには、近寄りたく、質問しにくく、意見しにくい雰囲気がありました。その結果、スタッフでない兄弟姉妹との間に隔たりを作ってしまった。愛をもって意見や忠告をしてくださった方を、批判的とみなして退けたこともありました。教会は皆で作り上げるものであるにも関わらず、時に私たちの態度は傲慢で威圧的であったことを心から謝ります。私たちはリーダーシップの構造に縦の関係を生み、神様にゆだねられた権威を誤って用いたこともありました。その結果、教会全体のリーダーシップに威圧的な雰囲気を許してきたことを謝ります。皆さんの心の声を聞くにつれ、私たちは目を覚まさせられました。

さらに私たちは、スタッフ間にある不和や不一致の罪への認識が甘く、多くの兄弟姉妹に不安や不信感を与えてしまったことを謝ります。

また、教会の中で一人一人の賜物を尊重することよりも、“シャープな人”の表現にあるような、世の価値基準で人を計ることもありました。それによって多くの兄弟姉妹を傷つけてしまったことを謝ります。

これからも続けて皆さんの声を聞き、皆さんが心を開きたいと思えるような仕える僕になる努力を続けていきます。

2. “実を結ぶ”ことへの偏った理解 <マタイ 22:35-40>

“実を結ぶ”という言葉が、人をキリストに導くことの意味のみに捉えられがちでした。結果として、多くの友人を教会に連れて来る兄弟姉妹が特に尊重されるなど、特定の賜物だけが評価される雰囲気をつくりました。それに伴い、クリスチャンの個人的な成長を助けることよりも他の人を導くことに重点が置かれてきました。その結果、多くの兄弟姉妹は継続的な愛を受けられず、矛盾を感じさせることになりました。その中には自信を失って教会から離れざるを得なかった方たちもいたことを、本当に申し訳なく感じています。

これらの反省に基づき、今後はスタッフの聖書教育に関しても更に充実させ、神様の恵みや神様への愛を深く学び、皆さんに伝えるよう努めていきます。

3. 目標達成に対する過度の強調 <エレミヤ 17:7-8>

人の救いは神様の恵みの業であるのに、私たちは人間的な知恵や計画に頼っていました。目標達成を強調するあまり、特別礼拝やサマーキャンペーンの時には、過度のプレッシャーをかけてしまいました。その結果、多くの兄弟姉妹の純粋な動機を傷つけたことを心から謝ります。申し訳ありませんでした。

神様の夢は一人でも多くの人が福音を知ることです。私たちもそのために使われることを望んでいます。今後は、皆さんの神様と人への純粋な愛によって福音が前進するように、私たちは心を尽くして仕えていきます。

4 . 権威的なディサイプリング < テモテ 2:24-25 >

人を変えてくださるのは神様であるにも関わらず、私たちには人の力によって変えようとする傾向がありました。それにより、私たちは聖書の教えとリーダー個人の意見とを混同して教え、また従うよう指導してきました。聖書に書かれていること以外にも律法的なものをつくり（例：デートや個人のスケジュールなどに対する助言）必要以上に個人の人生に干渉してきました。その結果、助言に従わないことが罪であるかのような不必要な罪悪感を与えてしまったことを謝ります。

聖書的な“互いに”人生に入り合う関係は神様の御心なので、必要に応じて助け合う関係を築いていくように努めます。

5 . 唯一の教会に関する誤った教え < 1 コリント 12:12-18 >

私たちは、この教会だけが神様の御心に適った真の教会であるという誤った教えをしてきました。この教えは排他的であったため、時に深い傷を与えたことを謝ります。聖書に書かれているとおりの「救いへの道」を教える必要はありますが、神様の教会に誰が属するかは、神様だけがご存知です。

私たちは、他の教会に対する排他的な態度を悔い改めていきます。

6 . 会計の説明不足 < コリント 9:7-8 >

通常献金や特別献金で、私たちは献金の使い道に対する説明が十分ではありませんでした。目標金額に達することを強調するあまり、多くの兄弟姉妹に献げることが強制されているかのように感じさせてしまいました。それにより、献金とは本来、喜んで献げるものであるのに、兄弟姉妹を傷つけてしまったことを謝ります。このような中でも、長い間献げ続けてくださった皆さんに心から感謝します。

また、今まで少数のスタッフのみで会計の運営を行い、兄弟姉妹の意見を十分に反映してきませんでした。幾度かの話し合いを通して、それらは私たちの感謝のなさや配慮の足りなさから来るものであることがわかりました。申し訳ありませんでした。

すでに発表したとおり、今後はスタッフでない方を中心とした会計委員会を発足させることにより、開かれた会計が運営できることを確信しています。

7 . 女性の役割についての不十分な教え < ベトロ 3:1-4 >

神様が女性に与えた役割に対しての教えを大切にできてきませんでした。男性と同様な責任を期待したこともありました。その結果、女性としての必要に対する配慮が十分ではなかったことを謝ります。

今後、姉妹の皆さんが神様の御心に沿って歩んで行けるように、聖書に基づいた女性の役割を探究していき、セミナーなどを通し、皆さんにお伝えしていきます。

私たち教会のリーダーは明らかに罪を犯してきました。そして、それらは繰り返し行わ

れてきたものでした。その結果、皆さんに多くの傷を与えたことを心から謝罪します。さらに、これらの罪に私たちが気づき悔い改めが始まるまでに、時間がかかったこともどうか赦してください。

すでに教会から離れてしまった方も多くいます。その中には、上述した私たちの罪が原因となり去った方もいます。私たちの罪によって多くの深い傷を与えてしまったことを心から謝ります。会って謝罪し、話し合うことのできた方もいますが、今後もこのような機会を持ち、謝罪をしたいと思います。

最後に、私たちの一番の願いは神様への心が新しくされることです。今後も神様と皆さんに助けていただき、内側から造り変えられるように悔い改めていきたいです。それによって、私たちの神様への感謝と愛を成長させていただけるよう願っています。どうか私たちのために祈ってください。私たちも皆さんの心が癒されるために、恵みによって強められるように祈ります。それによって教会が他の誰でもなく、ただ神様によって導かれることでしょう。そして、ますます神様の栄光が現れる教会へと成長していくことを心から願っています。

2003年5月25日

東京キリストの教会長老およびセクターリーダー

則岡 靖之宮尾 亮一

プレストン・シェパード

ジム・ベイシ

澤村 通孝 山崎 武士

保坂 亮司 リチャード 林

宮田 克美 宮川 公一

大木 仁 リコ・ロー

堀 倫之

http://pacrim.ucd.net/GV/Pacrim/JP/tokyo/Announcements/Articles/Elers_Leaders/Apoloogy_Letter.htm